

「CSが繋ぐ 新たな学校・地域のカタチ」 ～「Society5.0時代」の学校づくり・地域づくり～

2022(R4)9.27(火)19:00～21:00 in 加茂交流館

講演（府中市教育委員会学校教育課 宮田 幸治 主幹）

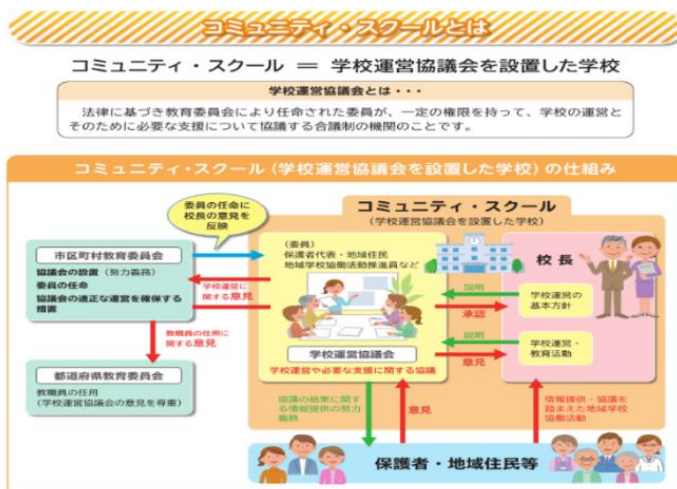
＊ コミュニティ・スクールとは ＊

コミュニティ・スクールの魅力は、人と人をつなぐ力です。コミュニティ・スクールとは、地域の子どもたちを中心において、どんな子に育てたいかを学校・地域・保護者が共有し、子どもたちに関わっていく仕組みのことです。ポイントは、「学びでつなぐ」ことです。今日は、「学びでつなぐ」というキーワードを意識して、話を聞いてください。



コミュニティ・スクールのことを「CS」（以下「CS」とする）と呼びます。私がCSに関わった頃は、誰もCSのことを知りませんでした。担当の私自身もよく分からずに説明していました。府中市内では最近になってようやく「CSとは『コミュニティ・スクール』のことかな」と広まってきています。

府中市は、アンガールズが親善大使をしています。田中さんは上下町の出身です。府中市の給食には、「田中さん家の切り干し大根」というメニューがあります。子どもたちにとって切り干し大根というと、苦手なメニューになりがちです。しかし、府中市の子どもたちは「あっ！田中さん家の切り干し大根！」と楽しみながら食べています。つまり、地域にあるすべての人や物が、子どもたちの学習する材料になります。それをどう有効に使っていくかが大事です。皆さんで気軽に地域の子どもたちの良いところや頑張っているところを話し合い、取組を考え進めていく。そのような仕組みがCSです。



←文部科学省が出しているCSの説明図です。いろいろ書いてありますが、なかなかイメージできるものではありません。当時はこの図しかなかったため、私自身が説明するときにはとても困りました。説明してもなかなか理解してもらえませんでした。

最近では、この1枚の写真でCSを説明するようにしています。↓



「この写真のどこがCSなのか」「この1枚の写真からどんなことを感じ取るのか」を近くの人と話し合ってください。

ちなみにこの写真は、府中市で1番最後にCSを導入した第一中学校の体育祭の様子です。この種目は、CSダービーと名付けられました。

第一中学校区は、1つの中学校と4つの小学校があります。体育祭では、1つの学校が1つの騎馬をつくって、ゴールを目指していく種目を行いました。学校運営協議会委員の皆さんが、見に来られた保護者や地域の方に、CSとはどういうものなのかを伝えたいという目的のもと、この種目を考えました。

どなたか考えをお聞きしていいですか。

参加者1: この騎馬の写真から、学校には地域・保護者・先生がいて、そして真ん中には子どもがいる。

つまり、チームワークをよくして1位を取るということではないでしょうか。

講師: その通りです。地域のひとと学校の先生と保護者が子どもたちを支えているということです。

参加者2: 先ほどの方と同じ意見ですが、先頭の人はおそらく保護者で、後ろの眼鏡の方は少し年配なので地域の役員の方かなと思います。あとはこの騎馬の後ろにボーダー柄のシャツを着た人が見えるので、他の学校のチームかなと思います。

参加者3: 広瀬学区の中で出た話では、騎馬を作るときに、逆に小中学生が馬になって支えて、地域の人を上に乗せても面白いのではないかという意見が出ました。

参加者4: 交流を通して世代を超えた絆ができるのではないかと思います。

参加者5: 子どもを支えている3人が、同じ方向を向いています。そして、足並みを揃えないと早く走れないという意味があると思います。

たくさんのご意見ありがとうございます。写真の一人一人の表情を見たらわかるように、笑顔で楽しくやっています。これが一番です。楽しくないと続きません。

意見にあったように、騎馬の土台は地域・学校・家庭の3つを表しています。その真ん中に子どもが安心して乗って、ゴールに向かっていくということです。このゴールとは、「育てたい子どもの姿」です。子どもを含めた4者が同じゴールに向かって進んでいくということです。

4つの小学校はいずれ1つの中学校に上がっていきます。つまりCSを通して、育てたい子ども像を小学校も中学校も共有して進んでいくことができます。この5校がつくる騎馬は、5つの学校が同じ目標・方向に向かっていくことを表現しています。また、土台になっている3人の方は身長が違うので、3人で高さを揃えています。そのおかげで、子どもが安心して乗ることができています。この「高さをそろえる」ということが非常に重要です。「高さ」というのは、地域・学校・家庭のそれぞれの「意識」を表しています。「こんな子どもに育てたい!」という地域・学校・家庭の思いは異なります。この意識の差を話し合って、「この地域の子どもは、こんな子に育てほしい。」という思いを共有していく、意識していくことが非常に重要です。この意識を共有していくことが、「高さをそろえる」ということになります。高さも違う、方向も違うとなると、子どもが落馬してしまいます。高さがそろって、同じ方向を向いて、同じ目標に向かって進むから、子どもは安心して乗っていられます。

先ほどの話の中で、「騎馬の上に地域の人を乗せたら」という意見がありました。実は、この種目の終わりには筋書きのないドラマがありました。第一中学校の生徒会長が乗っていた騎馬が、ゴール手前で止まりました。止まって降りて、今度は地域の人を上に乗せてゴールをしました。理由を聞いてみると、「自分は小さい時から中学校3年生になるまで、本当に地域の人に大切に育ててもらいました。温かい声をかけてもらって本当に安心して過ごすことができました。でもずっとお世話になってばかりではダメだと思います。これからは、自分が地域の人を支えていけるような人になっていきたいです。」と答えました。

こんな思いをもった子どもが、どんどん育っていくような取組になればいいなと思った瞬間でした。

* コミュニティ・スクール導入の目的 *

society5.0という言葉をご存じですか。超情報化時代のことです。政府広報がYouTubeに動画をあげています。動画では人が必要となることが少なくなる時代が来ることを紹介しています。空から自動でドローンが荷物を取りにきたり、冷蔵庫に話しかければ、メニューを答えてくれたりします。動画の女の子が「こんな時代がやってくるのが楽しみです。」と言って終わります。

この動画のある地域の方と見て、「楽しみですか？」と熟議したことがあります。

「便利になっていいけれど、人とのつながりや人の温かさ・思いやりはどうやって学んでいくのか。」「ロボットが丁寧に対応してくれるとあるけれど、ロボットに心はないじゃないか。」「各地域には祭りや伝統文化など、次の世代や未来につないでいきたい大切なものがある。そのような事は、これからどうなっていくのだろうか。」など、いろんな不安の声が出てきました。その解決策は、学校だけが考えるのか、地域・家庭が考えるのか…。大事なことは、三者がそれぞれの立場で意見を出し合いながら考えていくことです。

平成27年に、中教審答申からCS導入の目的について、以下のように示されました。

CSを導入することが目的ではなく、CSの仕組みを生かして、大人や学校、地域が変わっていくこと、これからの社会を担う子どもたちが「真」の生きる力を身に付けること、そして、誰もが持続的な幸せを感じることができる社会を「当事者」として創ること、これらを実現することが、CSを導入することの目的である。

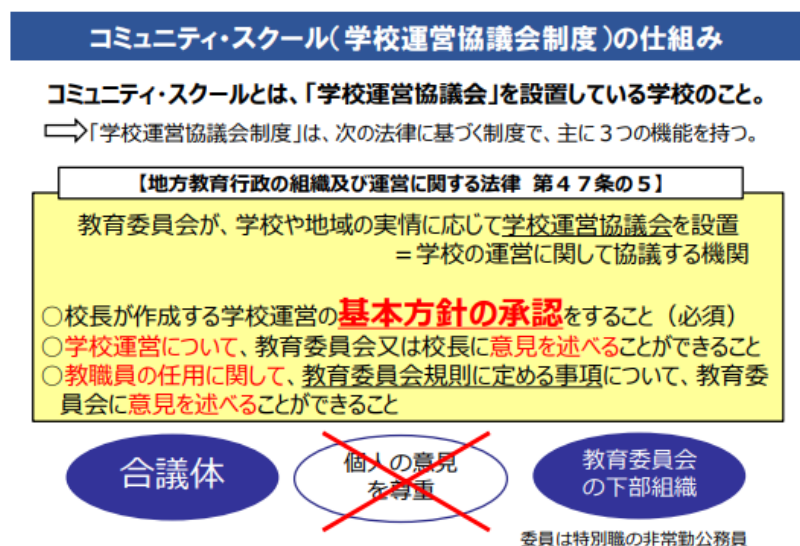
何のためにCSを入れていくのかを皆さんでしっかり話し合っ、地域の子どもをどんな大人に育てたいかを共有し、地域・学校・家庭がそれぞれの役割で関わっていくことが大事です。

* 学校運営協議会制度とは *

CSとは学校運営協議会を設置している学校のことです。学校運営協議会がすることは1つです。校長が作成する学校運営方針を承認することです。つまり、校長先生は「今年本校は、こういうところに力を入れてやっていきたい。そのために、地域・保護者の皆さんにこんな風にかかわってもらいたい。その関わりのおかげで、子どもたちはこんな力をつけることができる。」ということを委員に説明します。それに対して、委員が質問や意見を出して協議し、最終的に委員が承認します。だから学校運営協議会が絶対にしなければいけないことは、「承認」の1つだけです。

2つ目、学校運営について、教育委員会又は校長に意見を述べることができます。

3つ目は教職員の任用に関して意見を述べることができます。



校長先生は、学校の運営方針に文句を言われるのではないかと恐れています。しかし、学校運営協議会は皆さんの意見を一致して決める合議体ですので、運営方針に文句を言われるということは聞いたことがありません。

教職員の人事に関しては「タブレットを使うので、情報機器に強い先生を入れてほしい。」や「英語が堪能な先生を入れてほしい。」など、子どもたちの学びを中心においた意見が多く寄せられます。中には「中堅の先生が今年は多く転勤しそうだから、そこをフォローできる先生をいれてほしい。」などの意見もあります。

学校運営の承認は「OK」ではなく、「Let's(やりましょう)」となります。承認について失敗するパターンの例としては、校長先生の説明が地域の人に難しすぎるということがあります。教職員に説明するように伝えても地域の人には伝わらないし、何となく承認されてもCSの意味がありません。校長先生は「ここに力を入れたい。そのためにこんな取組をしていきたい。」ということをわかりやすく伝えていくことが大事です。

4月に実際に行った学校運営協議会の様子を録画したビデオを見ていただきます。

(内容)

・運営協議会の方から校長先生への質問

例 「学校に登校しづらい生徒に対しての手立てを学校と地域で行ってきて2年経つが、手応えはどう感じているか。」

・運営協議会の方が関わってもらった先生の話

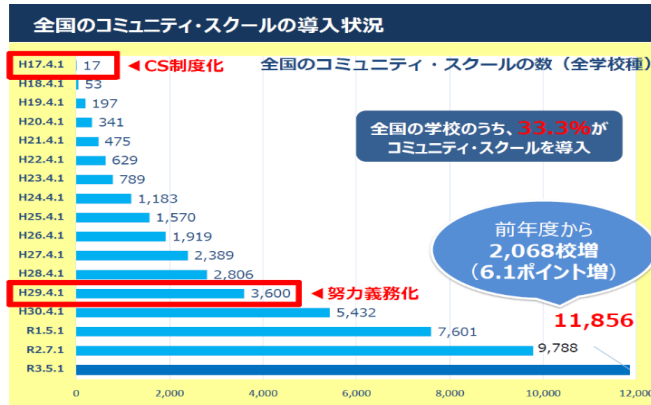
例 「教育とは後になって、ためになったと気付くことがある。だから、教育は目の前の点数などの結果だけで判断するものではない。」

協議会で、「地域が関わったことが、本当に学校や先生のためになっているのだろうか。お節介になっているのではないか。」という意見がよく出ます。だから、地域と学校の対話は重要だと言えます。地域のことを知らずして、地域の子どもの教育はできません。しっかり理解した上で取り組んでいくことが大切です。

今、学校だけでは処理できない課題が本当に多くなっています。子どもたちの学びを豊かにするために、地域の力を学校につなげていかなくてははいけません。これから子どもたちは、誰も体験したことのない未来をつくっていきます。スマートフォンを当たり前のように使っていますが、一昔前は黒電話、伝書鳩、飛脚などでした。今のスマートフォンはお財布代わりになり、スマートフォン一つで海外まで行けるようになっています。「あと20年後の電話はどうなっていると思いますか。」という問いの答えはわかりませんが、20年後の通信手段を考えてつくっていくのは今の子どもたちです。子どもたちは、これからどうなるかわからない未来のことを考えながらつくっていきます。一人ではなかなか難しいので、多くの人と一緒に課題を解決して、失敗を繰り返しながらよりよいものをつくっていきます。たくさん答えがある中で、他の人たちとともに、よりよい答えを見つけ出していく力が子どもたちには求められています。

学校と地域がパートナーとなることで、共通の目標に向かって動いていくことができます。CSは「辛口の友人」と言われることがあります。意見の中には、学校にとって耳の痛い話もあります。しかし、委員の方は、当事者として意見を言ってくれます。外から文句だけ言うのであればクレーマーですが、今の課題を一緒に何とかしていこうという学校運営協議会の動きは学校の強い応援となります。

* 府中市のCSについて *



←全国のCSの導入状況です。

府中市は、2014年（平成26年）から始めています。準備期間から数えると、10年が経とうとしているところです。

府中市には、義務教育学校が2校あります。義務教育学校とは1年生から9年生までが一つになった学校です。それぞれの学校が小中一貫教育を進めています。2012年（平成24年）度からCSの導入に取り組み、2019年（令和元年）度にすべての学校へ導入しました。本市の場合、CSを導入するために2年間の準備期間を設けました。その2年間で、先進校への視察に行ったり、どんなCSをつくっていったらよいかを話し合う場をもったりしました。

なぜ、CSが必要だったのか。府中市では、小中一貫教育を2014年（平成26年）度から行っています。小中一貫教育を行っていても「今までとの違いがわからない。」「何が変わったのか。」など、外から見て人にとってはなかなか伝わりませんでした。やっていることを知られていないことが大きな要因でした。1年生から9年生までの縦の接続とそれを支えていく地域のつながりが建前になっていました。

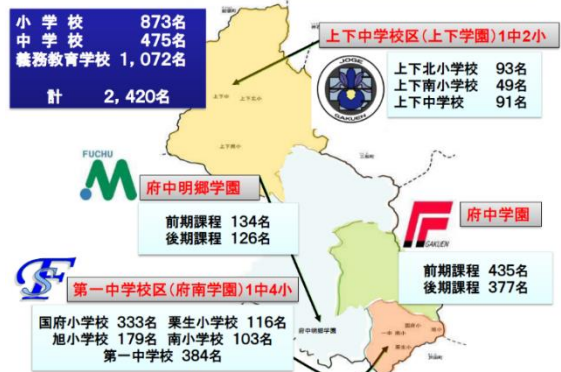
小中一貫という縦系と、それを支えていくCSという横系で、一枚の布をしっかりと紡いでいこうという思いでCSをつくってきました。本市のCSは、「地域とともにある学校づくり」のことを言います。そして、「学校を核とした地域づくり（＝地域学校協同活動）」があります。この2つを一体的に推進していくことが、今求められています。

そこをつなぐものが「学び」です。

今、各小中学校で求められていることに「社会に開かれた教育課程」があります。簡単に言うと、学校だけで閉じてしまう学びではなく、学校で学んだことが生きて社会とつながっていく教育課程を考えてくださいということです。そんな学習を学校だけでつくることは難しいです。

今までも各学校は地域の皆さんに支えられてやってきています。地域と無縁の学校はありません。ずっとお世話になってきています。わかっていることなのですが、今、CS制度を取り入れてやっていくことが、これから先の未来に向かって非常に重要になってくると言われています。つまり、昔からあるということは、新しいことをやるということではないです。CSを今までやっていなかったではなく、今までやっていたことをこのCSの視点で見直していくことが非常に重要になっています。今、学校だけでやっている一つの授業を、地域の力を借りてやる時にはどんな形になるのかを地域・学校・家庭がそれぞれの役割で関わっていき、取組を見直

令和4年度府中市内小中義務教育学校 児童生徒数



府中市コミュニティ・スクールの概要

Society5.0時代で活躍する 子供の育成と地域づくりを目指して

府中市コミュニティ・スクールは、「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」の両輪で取組を並行している。

この両輪をつなぐ軸、それが子供たちの学び＝「社会に開かれた教育課程」である。



していくことです。また、地域のお祭りが10年、20年先にできているでしょうか。例えば、地域のお祭りも学びとうまく絡めて子どもたちに関わらしていくこともよくされている取組の1つです。

* 府中明郷学園の実践紹介 *

この学校は、2019年(令和元年)度に「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰、2021年(令和3年)度に「キャリア教育」推進に係る文部科学大臣表彰を受賞している学校です。今は、府中明郷学園という1つの学校ですが、多くの学校を統合して1つの学校になりました。

学校は地域の大切な存在であり、いろいろ

な思いがあります。その学校が統合によって1つになって、府中明郷となり、CSを導入することになりました。地域の人にCS導入の話をしたときに「学校を無くした者が今さら何を言ってくるんだ。」という言葉が返ってきました。地域の人にとって、行政職である教育委員会は学校を無くした張本人です。「学校を無くしておいて、今度は力を貸せとはどういうことだ。」と言って、説明会をまともに聞いてくれませんでした。

しかしその中で、本当の思いも聞くことができました。「地域から学校が無くなるとはどういうことかわかるか。普通に見えていた子どもの姿が見えなくなる。声が聞こえなくなる。スクールバスで通学するから姿すら見えない。地域がどれだけ寂しくなるか。」という言葉を知りました。私は、その話を聞き、だからこそ、このCSの仕組みがいるのだと感じ、CSを進めていこうと思いました。学校が無くなった地域にも、今ある学校が自分の学校だと思ってもらえるようなCSをつくっていききたいと思いました。

まず、CSを地域の方に理解してもらうために、地域と校長と教育委員会で話し合って考え、半日子どもたちを地域にかえす活動を計画し、実行しました。

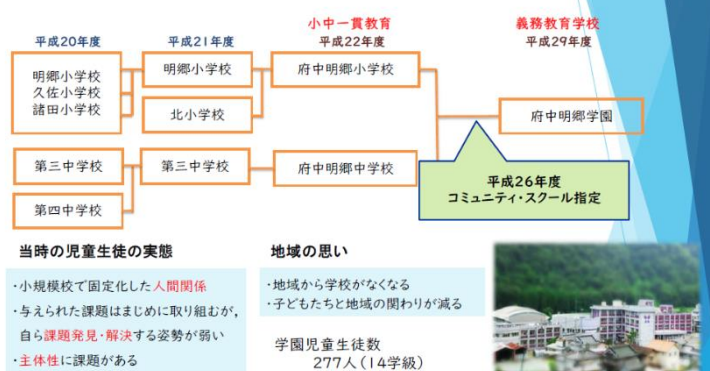
無くなった学校がある地域に、子どもたちをバスで帰らせました。多くの地域の人が集まって「おかえり」と手を振って迎えてくれました。「うちの地域にまだこんなに子どもたちがおったのか。」と喜んでくれました。子どもと地域の方が一緒になって、地域の文化祭の準備(布に絵の具を塗って、メッセージを書くなど)をしていました。その中で、地域の方と子どもたちが様々な会話をして触れ合いを深めていました。その様子を見て、私はCSでは、このような取組を進めていくことが必要なのだと感じました。

そこから現在に至るまで、様々なことがありました。それをまとめたものが「わたしたちのCS物語」です。



←これは学校運営協議会の地域の方がつくりました。書いてある言葉は、実際にできたつづきです。

府中明郷学園の概要



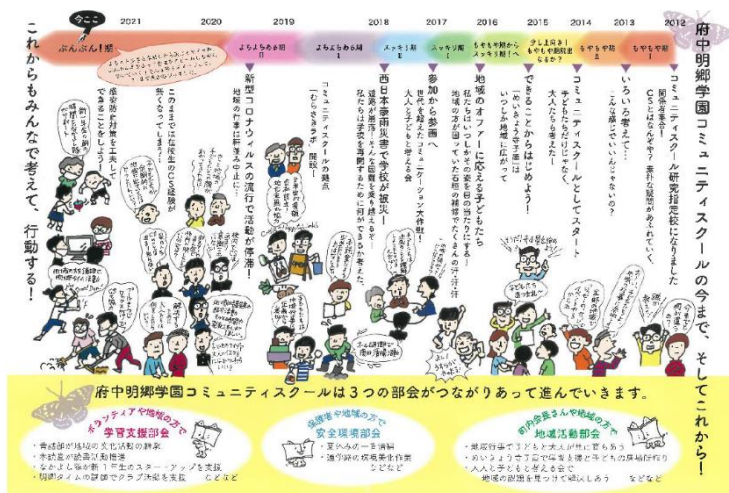
当時の児童生徒の実態

- ・小規模校で固定化した人間関係
- ・与えられた課題ははじめに取り組むが、自ら課題発見・解決する姿勢が弱い
- ・主体性に課題がある

地域の思い

- ・地域から学校がなくなる
- ・子どもたちと地域の関わりが減る

学園児童生徒数
277人(14学級)



←CSのことも年表にしています。その年表の上のところに「もやもや期」と書かれています。この「もやもや期」は「何をやってもスッキリしない。」「今やっていることはこれでいいのだろうか。」という時期です。その後の「もやもや期Ⅱ」は「CSってこういうことかな。」と少しわかってきた時期を表しています。

このように、足跡を残しながらも、常に現状を振り返って取組を進めていき、少しずつ形になってきている状況です。

府中明郷学園の学校運営協議会はこのような組織図になっています。

先ほどの学校運営協議会のVTRの中で、司会をされていた方は、地域の方(副会長)です。学校がずっと司会をしていたら、学校は何も変わりません。地域の方が会を進めて、今日どんな話をするのか決めることが重要なポイントです。

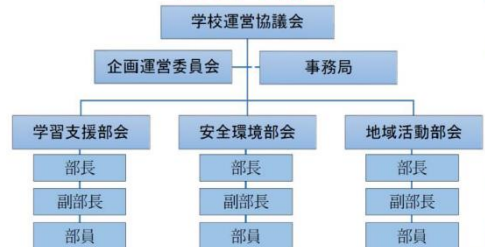
この組織図が良いということではありません。府中明郷学園も毎年やってみて、ダメだったら変えていきました。今はこの組織図ですが、今後も変わるかもしれません。このように各学校の実態に応じて、やっていながら変えていくことも大切です。



CSの実践

「地域の中に学校を!学校の中に地域を!」

府中明郷学園学校運営協議会の組織改編 (H30年度～)



CSの実践



【地域活動部会】

毎年、地域の町内会長と担当教員と子どもが熟議を行います。子どもたちが、地域行事に参画していくための打ち合わせをしています。

初めの頃は、地域の方が準備して、子どもたちは行事を楽しむだけでした。しかし、それでは何のためにこの活動をするのかという声があがり、目的とともに見直し、子どもたちが企画から参加していくように変わってきました。子どもたちが企画したものを町内

会でやってみようという話になり、子どもたちもさらに真剣に考えるようになりました。子どもたちに活躍する場を与えることで、参加から参画へと変わっていきました。



CSの実践 ～学習支援部会

「地域の中に学校を!学校の中に地域を!」

地域に学ぶ

明郷タイム(11クラブ活動)



琴



和太鼓



茶華道



昔話部



地域を学ぶ



本読み堂

かに小学校に慣らしていこうという取組です。府中明郷学園と栗生小学校には現在、学校の中にCSルームという部屋があります。地域の方が自由にきていただき、交流する部屋となっています。この部屋も活用して、スタートカリキュラムを実践しています。



CSの実践 ～学習支援部会

「地域の中に学校を!学校の中に地域を!」

地域で学ぶ

1年生スタートカリキュラム



むらさきラボ(つどう・つくる・つたえる「場」)

地域から学ぶ



つどう場(カフェ考える)



つたえる場(他国・他県と交流)



つくる(自分づくり)場

取り入れています。これを「なかよしタイム」といいます。年間を通して、計画的に地域と学校が連携を行い、子どもの様子を共有しながら組織的にスタートカリキュラムを実践しています。

【学習支援部会】

地域の方がクラブ活動に講師として入ったり、勉強を教えてくださいたり、本の読み聞かせを行ったりしています。他校でもされていることですが、CSという仕組みの中でやっていけば、より子どもたちの学びが深まっています。

新たな取組を紹介します。1年生スタートカリキュラムです。新1年生は、環境の変化に追いつかず、なかなか落ち着きません。いろんな心配もあります。その状況からゆるや

【スタートカリキュラムの内容】

入学式の次の日、新入生に4年生がサポートとします。4年生自身にも責任感や思いやりが育まれます。入学前から新入生と4年生は交流をしていますので、新入生にとっては、知っている上級生がサポートしてくれる安心感があります。

また、地域の方で構成する「なかよし隊」があります。なかよし隊は、子どもがゆっくり自然に学校に慣れるようにするため、朝の時間は、園所での過ごし方と同様に遊びを

【安全環境部会】

地域の方がワックスがけ、プール清掃などの環境整備を行っています。先生方の業務改善にもつながっています。

運営協議会副会長さんが、「子どもたちを教える先生たちが元気で幸せでないと、教えてもらう子どもたちがいい子に育つわけがない。先生方が少しでも働きやすい環境になるように、できることは地域でやるので言ってほしい。先生らが幸せなら、子どもたちもきっと幸せになる。」とされていました。



CSの実践 ～安全環境部会

「地域の中に学校を!学校の中に地域を!」



様々な活動をしています。アンケートから分析もしています。その中で見えてきたことから、「今、自分たちの学校に足りないものは何か。」「こんな課題を何とかしていきたい。」「そのためにこういう活動をしていきたい。」ということを考えていきました。

府中明郷学園は、情報活用力、コミュニケーション力、未来を創る力、内省的思考力などに弱さがあると分析し、課題解決に向けた活動を考えます。このときに大切なのは、教育課程(カリキュラム)に位置付けた活動にすることです。

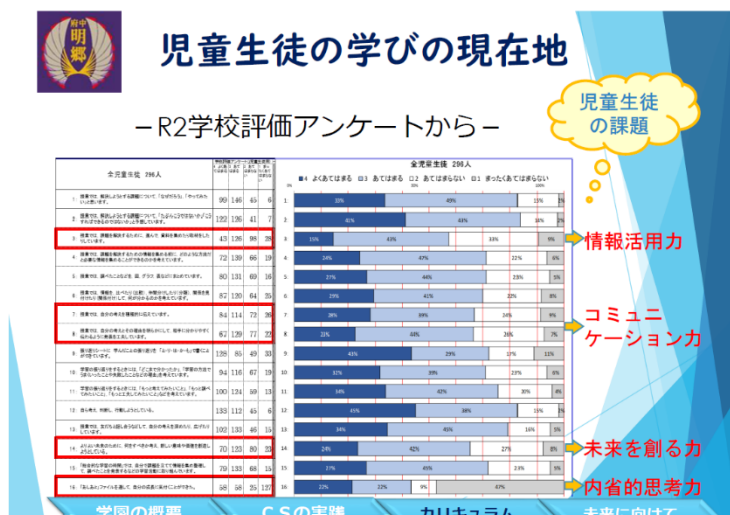
府中明郷学園の教育課程(カリキュラム)です。1年生から9年生までが、どのように学習を深めていくかデザインしています。

教育課程をつくろうと思ったときに、完璧なものをつくることはできません。はじめは今やっていることを並べてやってみる。1年を通して少しずつ改善し、更新していくことが必要です。

府中明郷学園の特徴として模擬会社があります。学校の中に模擬会社があり、現在4社目です。地元の企業の方に来てもらって経営理念を学び、商品開発をして売っています。

今年、驚いたことが起きました。商品を買って利益が上がり、税金はどうするのかという問題が起きました。国や県に収める税金を払っていかないといけないという話になりました。このように、子どもたちはやっていることを通して社会とつながっていることを体験しています。

模擬会社には社長をはじめ、商品開発部、営業部、広報部、経理部など組織があります。各部署に地元企業の方がついて、商品開発から販売、マーケティングまでをサポートします。子どもたちは何度も失敗を繰り返しますが、そこから這い上がって何とか商品開発までたどり着き、営業販売、広報活動、経理活動などを学んでいきます。学校の先生では教えることができない内容です。このようなサポートをしてくれる地元企業の支援チームは、学校運営協議会が中心となって取り組んでいます。学校運営協議会の立石会長(タテイシ広美社社長)は、支援チームにも入っています。



立石会長は、同じ企業の方に「立石さん、仕事もあって忙しいのに学校にボランティアで入ってよくやりますね。」と言われるそうです。そのとき、立石会長は「自分はボランティアで行っているのではなく、先行投資として行っています。将来、自分の会社の社員になってくれる子かもしれないでしょう。CMに出る大きな会社だけではなくて、地域でしっかりと頑張って、世界とつながっている会社があることを伝える良いチャンスだと考えます。地域の子どもが地域で働ける環境をつくっていくためにも、この活動はすごく大切です。」と答えるそうです。

…… 模擬会社の動画視聴 ……

人前で自分の考えをしっかりと話すことができず、書いてあるものを読んでいる子どもの姿を見た委員さんが、「子どもが何を言っているかわからん。人前でも堂々と自分の意見が言える子に育ってほしい。」という話を運営協議会の中で出され、そこから模擬会社の取組が始まりました。すべては、子どもたちの課題をどうやって解決していくかという共通の考えからです。

* 終わりに *

「学校の先生は風の人、地域の人は土の人」とよく言われます。学校の先生は転勤がありますが、地域の人はその土地に住んで生活されます。風と土の役割をそれぞれバランスよく果たすことによって、そこに美しい花が咲くわけです。風が吹き荒れて、土ぼこりが舞ったところでは、きれいな花やおいしいものができるはずがありません。風である先生たち、土である地域の人たちが、それぞれの役割でバランスよく子どもたちに関わる仕組みをつくりあげること、風が土を耕して、土が人を育てるという循環を作っていくということがCSの大きな役割の一つであるといえます。

また、他の学校運営協議会との交流も大事です。交流を通して良いと思ったら実践してみることです。ポイントはTTP(徹底的にパクリ)です。いいなと思ったら徹底的に真似してみることが大切です。

質疑応答

参加者：CSが何かを全く知らずに来たのですが、府中の活動を見て、すごいことをしていると思いました。子どもを育てる上で、大事なことをやっていることが伝わりました。ただ時間がかかると思います。辛口の友人という表現もあるように、地域と学校が本音で話をしないと進まないと思います。だから今日、ここに集まった人たちのコミュニケーションが大事だと思うのですが、単純に飲み会をすとか、ざっくばらんに話し合える会を持つなどされましたか。

講師：核心をつく質問です。校長も本音で話をしないと、地域の人も受け取ってくれません。隠そうとすれば、人間は追及しようとしします。今の状況をしっかりと伝えて、その課題を解決していく方法を一緒に考えていくことが大切です。

学校運営協議会の委員さんには守秘義務があります。これは委員をおりた後も同様です。そういった信頼関係の中で、腹を割って話をしていくことが大切です。実際に、2年間の準備期間をもって導入していますが、その間も喧々諤々とした話もたくさんありました。「これをやってどうなるのか。」「話し合いばかりして全然取組が見えんじゃないか。」「導入を1年後に迎えて何も進んでいないじゃないか。」という話もたくさん出てきました。自分たちの学校をどんなCSにしていきたいのか、今の自分の学校の課題は何なのかを繰り返し話していくことで、子どもを真ん中におい

た話が進んでいったし、集まる人のつながりも強くなっていったと思います。何かをしようとするときには、熟議することが大事です。

子どもの課題を中心に何ができるかを考え、実践していくことは時間がかかります。府中市もここまで来るのに10年かかりました。先進校の実践発表を聞いて、初めの頃は、「すごいな。あんなことはできないな。」と思っていました。ただ、1年1年やっていき、「今年はこうだから来年はこうやってみよう。」とつなげていくうちに、形としてできあがっていきました。失敗したら何が課題だったのかを共有して、次に生かしていけばいいのです。学校運営協議会は、学校にとって「何でも相談できる力強い仲間」です。

参加者： 福山市は、小中学校区で1つの学校運営協議会を設置していきます。府中市は小中別で学校運営協議会を設置していますが、小中学校の運営協議会で熟議をする場などはありますか。

講師： CS連絡協議会を組織していて、年間2回は委員さんの研修の場として、各校の実践を交流しています。前の年にやったことを次の年も同じようにやればよいという考えでは上手くいきません。少しずつバージョンアップしていくことが大事です。

小中学校区で1つの運営協議会というシステムは、府中市のCSができた当初はありませんでした。今後、府中市でも要望があれば考えていこうと思います。中学校区で1つの運営協議会というのは良いと思います。ただ、気をつけないといけないのが、中学校区でどういう組織にしていくのかということをしっかり話し合って考える必要があると思います。

参加者のアンケート

- ◇ 今日はありがとうございました。仕組みや実践を細かく丁寧にお話くださり、本当にいろいろなイメージが沸いてくる時間となりました。はじめは新しいことを新たにするというイメージでしたが、今あるものをさらに価値付けて、学校・家庭・地域とつないでいくということがよくわかりました。来年の開校に向けて一步一步、本音で本気で、できることからしていきたいと思います。
- ◇ とても良い制度だと感じました。地域・学校・保護者のつながりを大切にしていきたいと思っていますが、どのように関わっていく事が私たちにできるのか、つながっていけるのかということに悩みや不安を感じています。地域で子どもが遊ぶ姿や世代の違う人との関わりが薄くなっているのが、顔の見える地域を望みます。
- ◇ コロナ禍の今、地域とのつながりが薄いというかほとんどなくなって寂しいなとずっと感じていました。CSが導入されることで少しでも地域と学校がつながれて、笑顔が増えたらいいし、楽しいし、子どものより良い成長にもなると思います。
- ◇ CSのイメージが騎馬戦の写真でとてもつかみやすかったです。「地域・学校・保護者」という言葉が何度も出されました。改めて地域とは何かを考える必要を感じました。CSが始まるまでにそれぞれの地域で話し合う機会がもてればと思います。本日はありがとうございました。
- ◇ 府中のCSの取組、とても参考になりました。実践にうつすには、目標、方向性を話し合い、そのために地域の人々の協力を得ていく必要があると思います。山野、広瀬、加茂地域の良さを感じて創り上げていくことは、人と人とのつながり、地域・人の良さを子どもたちに感じてもらえることになるのでしよう。人々が集まることは良きことかな。